

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

平成21年3月30日

財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長

松 本 紘

事 業 区 分	平成20年度・大学全体計画事業助成		
事 業 名	学生交流協定学校への短期学生派遣		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料      無      有(助成者一覧)		
会 計 報 告	事業に要した経費総額	5,000,000円	
	うち当財団からの助成額	5,000,000円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	別紙のとおり	別紙のとおり	
	-----		
	-----		
	-----		
	-----		
合 計	5,000,000円	5,000,000円	

## 平成20年度京都大学教育研究振興財団助成事業による渡航費助成者一覧

	部局	学年	性別	留学先大学	留学先国	出発	帰国	助成額
1	人間・環境学研究所、 総合人間学部	M1	女	ウィーン大学	オーストリア	2009.3	2010.1	150,000
2		B2	女	ベルリン自由大学	ドイツ	2008.10	2009.7	150,000
3		B2	女	メルボルン大学	オーストラリア	2009.2	2009.11	150,000
4		B3	女	ユトレヒト大学	オランダ	2008.9	2009.7	150,000
5		D3	男	ベルリン自由大学	ドイツ	2008.10	2009.7	150,000
6		B3	男	マンチェスター大学	連合王国	2008.9	2009.6	150,000
7		B2	男	ジョージワシントン大学	米国	2009.1	2009.12	100,000
8	文学研究科・文学部	B3	女	ストラスブール大学連合 マルク・ブロック大学	フランス	2008.9	2009.6	150,000
9		B4	男	グルノーブル大学連合 スタンダール大学	フランス	2008.9	2009.6	150,000
10		B3	男	ライデン大学	オランダ	2008.9	2009.6	150,000
11		B3	男	ハワイ大学マノア校	米国	2008.8	2008.12	100,000
12		D2	女	ミュンヘン大学	ドイツ	2008.4	2009.2	150,000
13		B3	女	ストラスブール大学連合 マルク・ブロック大学	フランス	2008.9	2009.6	150,000
14	教育学研究科	M2	女	ユトレヒト大学	オランダ	2009.2	2009.7	150,000
15	法学部	B4	男	ストラスブール大学連合 ロベール・シューマン大学	フランス	2008.9	2009.6	150,000
16	経済学研究科・経済学 部	B2	女	ペンシルベニア大学	米国	2008.9	2008.12	150,000
17		B3	男	オークランド大学	ニュージーランド	2008.7	2008.11	150,000
18		D3	男	マギル大学	カナダ	2008.9	2009.5	150,000
19		B3	女	グアダハラ大学	メキシコ	2008.8	2009.6	150,000
20		B2	男	コンコルディア大学	カナダ	2008.9	2008.12	150,000
21		B3	男	グルノーブル大学連合 ピエール・マンデス大学	フランス	2008.9	2009.6	150,000
22	理学研究科・理学部	B3	男	グルノーブル大学連合 ジョセフ・フーリエ大学	フランス	2008.9	2009.6	150,000
23		B4	男	ウォータールー大学	カナダ	2008.9	2008.12	100,000
24	工学研究科・工学部	M1	男	ウォータールー大学	カナダ	2008.9	2009.4	150,000
25		M2	女	ユトレヒト大学	オランダ	2009.2	2010.2	150,000
26		M1	男	テルアビブ大学	イスラエル	2008.10	2009.1	150,000
27		M2	男	ウォータールー大学	カナダ	2008.9	2009.4	150,000
28		M1	男	ウォータールー大学	カナダ	2008.9	2009.4	100,000
29		B3	男	ウプサラ大学	スウェーデン	2009.1	2010.1	150,000
30	農学研究科・農学部	B2	女	ローザヌス大学	スイス	2008.9	2009.1	150,000
31		B3	女	ストックホルム大学	スウェーデン	2009.1	2009.6	150,000
32		B3	男	マンチェスター大学	連合王国	2008.9	2009.6	150,000
33		B2	男	マンチェスター大学	連合王国	2008.9	2009.2	150,000
34		M1	男	ハワイ大学マノアキャンパス	米国	2008.8	2009.5	100,000
35		B3	男	マギル大学	カナダ	2008.9	2009.5	150,000
						合計		5,000,000

## 成果の概要 / 京都大学総長 松本 紘

京都大学では、海外の19カ国52大学3大学群と大学間学生交流協定を締結し、年間70名程度の留学生を、協定に基づいて1年間程度受入れ、本学の正規課程の学生とともに英語で授業を行う国際教育プログラム等を受講させております。

この大学間学生交流協定は、留学生を受入れるだけでなく、学生の相互交流を促進し、学生の短期派遣を推進することをも目的としております。平成20年度も、この制度により留学する学生を支援するため、学生交流協定校への短期学生派遣事業として貴財団に申請し、助成をいただいたおかげで、13カ国・25大学へ留学した35名の学生に渡航費の補助として助成することができました。

助成を受けた学生は、その大半が現在も留学中ですが、各々の協定校で授業や研究指導を受け、単位を修得し、専攻分野の学習、研究を深め、修士論文、博士論文の作成等に貴重な知識を習得しているはずであり、協定校で修得した単位は、各学部・研究科のルールに応じ、本学で習得した単位と同等のものとして認定される場合もあります。また、学習、研究面で成果があることのみならず、留学で得る経験は、国際感覚の涵養や視野の広がりをもたらすなど、人間としても極めて貴重なものとなり、学生の人生にとっても大きな好影響を与えるものになることは、今までに貴財団の助成を受けて留学した者達の報告からみても疑いの無いところであると思われます。

大学間学生交流協定による留学者数も、平成16年度の32名から、平成20年度には52名と増加いたしました。本件渡航費助成の存在が学生に浸透し、経済的懸念により留学を躊躇する度合いが軽減され、積極的な留学への応募に結びついているものと考えられることも、助成を受けた学生個々の留学成果とは別に、助成の成果といえることができると考えております。前述いたしましたように平成20年度に助成を受けた学生のほとんどはまだ留学中であるため個々の留学成果は帰国後の報告を待つこととなりますが、以上のような意味で、19年度以前に助成をいただいた学生、助成をいただいていない学生によるものも含めて、学生から報告のあった留学の成果と言うべき事柄の例を紹介させていただきます。

- ・最初は言葉の問題もあり授業についてゆくのに苦労したが、努力次第でなんとかなることがわかった。
- ・ディスカッションができるレベルの英語力が身についた。マーケティングに関する知見が深まり、事業戦略のケーススタディを通じて具体的事例に対する理論の応用を学んだ。
- ・留学先がドイツ語教育に熱心で最大限に学習できた。日本で入手できなかった資料が得られ、研究上の情報源や研究者との繋がりが持てた。
- ・外国の学生の向上心と熱意に驚かされ、自分も京都大学の代表であるという意識で努力し、先生方に評価された。将来の目標がはっきりとしてきた。

- ・外国人には難しい試験に努力をして挑戦し納得のいく結果を得られ自信になった。
- ・就職か大学院進学かという進路選択に大きな影響があった。
- ・厳しい環境で勉強してフランス語、英語、数学の力が上がった。
- ・学業・生活面でかなりの苦労があったが自分の価値観に大きな影響があり、さらに長期間の留学に挑戦したくなった。
- ・様々な国から来た学生と議論したことで外から日本を見る視点が持てた。
- ・外国語で専門科目を学んだことで今後の研究の下地となる教養を培えた。
- ・京大で所属しているのと同じ課外活動の団体に参加できて有意義な経験となった。
- ・外国で日本語言語学を学ぶことで日本に居るとおろそかにしがちな日本語の特性を詳細に学べた。
- ・EU 諸国から来ている留学生に混じり学習することで自分の専門に関係がある EU についての理解が深まった。
- ・日本で経験したことのないような厳しい指導を受けながら自分でも驚くほど大量の課題をこなせて充実した。